



# 第85回メーデー 県内10会場に1200人



〒520-0041  
滋賀県大津市浜町1-38  
滋賀銀行従業員組合  
TEL 077-521-2775  
FAX 077-525-5232  
http://www.biwa.ne.jp/ffs/  
e-mail:ffs@biwa.ne.jp

## 第86回メーデー宣言

私たちは本日、労働者・県民の団結と連帯の力で「労働者の祭典」である、第85回滋賀県民メーデーを成功させました。今、日々の仕事・暮らしに大きな負担がのしかかっています。そのような時だからこそたかひを強めくらしと雇用を守り、憲法がいきる安全・安心社会の実現をめざすことを確認しました。

### ◇すべての労働者・県民のみなさん

東日本大震災から3年余りが経過しましたが、被災地の生活再建・復興は進まず、暮らしも仕事も復旧にはほど遠いものです。避難を余儀なくされ故郷を離れざるを得ない人もまだ、多くおられます。原発事故の影響は色濃く、コントロールされているどころか汚染水を防ぐ対策すらできず、ずさんな除染対策がすすめられ、健康への不安がつのり、一層の被害を広げています。

### ◇すべての労働者・県民のみなさん

そうした中、自民党・公明党連立政権は、一層の数による暴挙を進めています。生活を破壊する消費税増税を強行し、雇用規制を緩和しようとし、TPPの交渉を進めています。災禍を撒き散らし続けている原子力発電はやめざるべきと、国民の約7割が考えているにも関わらず、再稼働させ、新設し、輸出しようとしています。秘密保護法で足下をならし、解釈改憲をし、「戦争の出来る国づくり」をすすめて「武器輸出三原則」を廃止することで死の商人へとひた走っています。「社会保障のため」とし消費税を上げる一方、年金や生活保護の削減を推し進め、国民生活に大幅な負担を押し付けました。この、いっそうの貧困と格差拡大路線に対して、強い怒りが吹き出しています。

また、さらなる派遣労働の緩和や解雇自由化、労働時間の規制緩和などをすすめて、労働・雇用を破壊しようとしています。私たちの願いは働きがいのある人間らしい仕事です。本当の経済回復において第一にすべきことは賃金・労働条件の改善と雇用の安定です。もっとも困難な人たちの懐を直接温めることです。安倍政権が進んでいる道は全く逆です。

### ◇すべての労働者・県民のみなさん

このような安倍政権に県政は追従していると言わざるを得ません。県民の切実な願いに背き続けてきました。来る知事選挙において議論を大きく巻き起こし、県政を刷新し県民の手に取り戻す契機にしていかななくてはなりません。

日本でも世界でも運動は根を深く張り、広がっています。10月にはオスプレイを使った日米合同演習に反対して高島に1100人以上が集まりました。秘密保護法の問題では県内各地で連日反対の運動が起きました。

また、原発反対の運動では3月9日の集会に1000人もの方が集まり抗議の声をあげました。

これまでの取り組みを力に、今日から新たに運動を進め、日本国憲法に基づく「人間らしく働き、人間らしく生きることのできる社会」を実現していけるように多くの人と連帯し、取り組みに確信をもって進みましょう。

**働く者の団結万歳！ 世界の労働者万歳！ 第85回滋賀県民メーデー万歳！**

2014年5月1日

第85回滋賀県民メーデー参加者一同

「4月からの消費税の引き上げ、TPP交渉への参加、教育への政治介入、改憲など安倍政権の暴走政治が加

速している。貧困と格差を解消するためにも労働者、県民の運動が重要。7月の滋賀県知事選挙は安倍政治をストップさせるうえで国にものを言える知事が必要」と述べられました。

恵まれ、大津会場には昨年と同様メンバー17人が



来賓挨拶で「明るい滋賀県政をつくる会」推薦の坪田いくお氏は「安倍政権による悪政の防



今年メーデーは好天に恵まれ、大津会場には昨年と同様メンバー17人が

5月1日、県内10会場でメーデー集会が行われ千二百人が参加しました。今年も従業員組合・さまざまなネットワークや先輩組合員など18名が参加しました。中央・大津会場の膳所公園では9時半から湊愛子さんの篠笛、オカリナの演奏や息吹合唱団のうたごえなど文化行事につき10時10分からメーデー式典が行われました。

この日のメーデーは草津栗東会場、守山野洲会場、近江八幡会場、湖北会場、東近江会場、彦根会場、甲賀湖南会場、高島会場、日野会場でも集会・デモが行われました。湖北会場にはさざなみネットから1名が参加しました。

**働くものの団結で生活と権利を守り  
平和と民主主義、中立の日本をめざそう**

波堤となり、県政を転換する」と訴えられました。リレートークは、自由法曹団、民医連、滋商連、高教組、民青の代表5人の方が行い、最後に「人間らしく働き、人間らしく生きることを出来る社会」を実現しようとしたメーデー宣言（左枠）を採択しました。





# 滋賀・憲法のつどい 守ろうっ平和・語ろうっ未来

5月11日午後、近江八幡市内に於いて「第10回滋賀・憲法のつどい」が開催されました。この集会は滋賀九条の会が主催し「守ろうっ平和・語ろうっ未来」をテーマに開かれたもので、会場一杯の400人が参加され、当組合から先輩組合員など4名が参加しました。

つどいのプログラムはアトラクション「フルートとお歌をピアノにのせて」で始まりました。コンサートはフルート・中川未希さん、ピアノ・石田和美さん、声楽・川北佳代子さんによる「世界の国の歌めぐり」の演奏が聴衆を魅了しました。つづいて主催者の挨拶と



して滋賀・九条の会共同代表の今関信子さんからのメッセージが披露されました。講演は九条の会事務局長の小森陽一さんが「『戦争する国』への暴走に立ち向かう」と題して行われ、迫力に満ちた分かりやすい話でした。小森さんは講演で次のように、熱く語られました。

## 9条は日本の国の生命線

「憲法改定をめざす自民党は、憲法の明文改定に必要な議席数や国民の強い反対世論などで実現が困難なため安倍政権は解釈を変えようと憲法を変えようと



反」との伊達判決が出されたがアメリカの圧力で最高裁でくつがえし、集団的自衛権と全く関係のない最高裁判決まで持ち出して利用したり、集団的自衛権と国連の集団安全保障など並列させ国民をあざむくなど安

## 大飯原発2基に差し止め判決 国はエネルギー政策の転換を

### 93回目のキンカン行動

5月23日夕、93回目のキンカン行動が取り組まれ33人が参加され、従業員組から組合員と先輩組合員ら4人が参加しました。この日の行動は、J



R膳所駅前から関西電力滋賀支店前まで、市民に「原発から自然エネルギー」「福井地裁判決を重く受けとめ、再稼働を断念せよ」と訴えながらデモ行進をしました。

### 14万人が今だ避難生活

福島第一原発事故から3年2か月を経過しましたが、14万人もの人々が非難生活を余儀なくされておられ、全く先の見えない生活と、命と健康が脅かされています。にもかかわらず、政府は、原発をエネルギー基本計画の



重要なベースロード電源と位置づけて、原発の永久化を狙っています。

### 大飯原発3・4号機 運転差し止め判決

5月21日、大飯原発の運転差し止めを命じる福井地裁が判決が出されました。これは、安全性が保証されないまま関西電力大飯原発3・4号機

## とびいっぴ

### 大飯原発の運転差し止め 命じる福井地裁判決

5月21日、大飯原発2基に対する差し止めを命ずる判決文は冒頭で「ひとたび深刻な事故が起これば多くの人の生命、身体やその生活基盤に重大な被害を及ぼす事業に関わる組織には、その被害の大きさ、程度に応じた安全性と高度の信頼性が求められるべきである」と指摘しています。

その上で、大きな自然災害や戦争以外で、憲法上の権利である生存を基礎とする人格権が極めて広範に奪われる可能性は「原発事故のほかは想定し難い」と述べ、そうした事態を招く具体的な危険性が万が一でもあれば、「差し止めが認められるのは当然」と断じています。

### 「残業ゼロ」「解雇規制の緩和」の策動

4月22日に開催された第4回経済財政諮問会議・産業競争力会議合同会議に、産業競争力会議の雇用・人材分科会の主査である長谷川閑史経済同友会代表幹事から「個人と企業の成長のための新たな働き方」多様で柔軟性ある労働時間制度・透明性ある雇用関係の実現に向けて」という提案が行われた。

長谷川氏が提案した「新たな労働時間制度の創設」は、第一次安倍内閣の時、広範な労働者・国民から「残業代ゼロ法案」と批判され断念に追い込まれた「ホワイトカラー・エグゼンプション」の焼き直しにほかならない。「予見可能性の高い紛争解決システムの構築」の内容は、解雇自由な社会の突破口とされる「解雇金銭解決制度」そのものである。



ている。安倍内閣は「国民が気がつかないように、ナチスに学べ」と次々と法律

(福井県おおい町)を再稼働させたとして、福井県などの住民189人が関電に運転差し止めを求めた訴訟に福井地裁での樋口英明裁判長は関電側に運転差し止めを命じたものです。

### エネルギー政策転換を

大飯原発2基が、私達のキンカン行動などの後押しによって、再稼働の差し止めの判決(別掲)がくだされました。安倍政権は、今回の判決を真摯に受け止め、全国の原発の再稼働を即刻断念し、国民の大切な命を守る上でも、自然エネルギー政策転換を速やかに行うべきだと思いました。車谷

の解釈を変えて、武器を輸出し自衛隊を海外で戦争する軍隊にする実質的憲法破壊、内閣総理大臣一人の判断で戦争出来る国への道を突き進んでいる。9条は日本の国の生命線、自衛隊員の命を絶対投げ出させてはいけない。

9条の会は10年目だが運動で改憲反対の世論を広げてきた。さらに皆の力で憲法守れの世論を広げ、戦争をストップさせよう」と汗びっしょりです。訴えられ、聴衆は大きな拍手で応えていました。